

(2) 平成30年度月別の気象概況

4月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、期間の中頃は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあった。</p> <p>中旬：高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過したため、数日の周期で変化した。</p> <p>下旬：低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過したため、数日の周期で変化した。期間の中頃には、低気圧や前線が通過し、大雨となった日があった。</p>
5月	<p>上旬：低気圧や前線の影響を受け、曇りや雨の日が多くなり、大雨となった所もあった。期間の前半は南から暖かい空気が入り気温が高くなったが、後半は冷たい空気が入ったため気温が低くなり、気温の変動が大きかった。</p> <p>中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、期間の中頃には低気圧や前線の影響により曇りや雨となった。また、期間の後半は南から暖かく湿った空気が入り、気温の高い日が多かった。</p> <p>下旬：前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。南から暖かい空気が入り気温の高い日が多かった。</p>
6月	<p>上旬：この期間は、前半は高気圧に覆われて晴れの日も多かったが、後半は低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。なお、関東甲信地方は6月6日ごろに梅雨入りしたとみられる（速報値）。</p> <p>中旬：この期間は北に偏った高気圧や気圧の谷の通過などの影響で、曇りや雨の日が多くなった。10日から11日にかけて台風第5号が日本の南を通過したため、大雨になったところがあった。</p> <p>下旬：この期間は、前半は梅雨前線が本州の南岸に停滞したため曇りや雨の日があったが、後半は太平洋高気圧の勢力が強まり梅雨前線が北上したため、晴れの日が多くなった。なお、関東甲信地方は29日ごろに梅雨明けしたとみられる（速報値）。</p>
7月	<p>上旬：晴れて気温の高い日が多かったが、期間の中頃からは台風第7号から変わった低気圧と前線の影響で雨や曇りの日があった。</p> <p>中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温のかなり高い日が続いた。関東甲信地方では、7月中旬の平均気温の平年偏差が+4.1℃となり、1961年からの統計開始以降最高となった。</p> <p>下旬：この期間は、前半は高気圧に覆われたため、晴れて気温の高い日が続いた。特に、23日には日最高気温が青梅市で40.8℃と観測史上東京都内で初めて40℃を超えた。後半は上空の寒気や台風第12号の影響で、曇りや雨の日が多くなった。</p>
8月	<p>上旬：前半は高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が続いたが、後半は前線や台風第13号の影響で曇りや雨の日が多くなった。</p> <p>中旬：高気圧に覆われ晴れの日が多くなったが、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日もあった。期間の中頃にかけては南から暖かい空気の流れ込んだため、気温が高くなったが、期間の終わりは北にある高気圧から冷たい空気の流れ込んだため、気温が低くなった。</p> <p>下旬：高気圧に覆われ晴れの日が多くなったが、台風第20号や気圧の谷の影響で曇りや雨の日もあった。暖かい空気に覆われることが多く、気温は高くなった。特に27日は前線に向かって暖かく湿った空気の流れ込んだため、雷を伴って大雨となったところがあった。</p>

9月	<p>上旬：台風第21号や秋雨前線の影響で、曇りや雨の日が多くなった。また、気温の変動が大きくなった。</p> <p>中旬：秋雨前線や気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多くなった。17日から18日にかけては上空の寒気や湿った空気の影響で雨や雷雨となり、激しく降った所があった。</p> <p>下旬：秋雨前線や気圧の谷、台風第24号の影響で曇りや雨の日が多くなった。特に台風第24号が東京地方に接近した30日は暴風雨となり、倒木や屋根剥離等の被害が発生した。</p> <p>また、寒気の流入した21日、26日と27日は気温がかなり低くなった。</p>
10月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、3日から5日にかけては前線や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。なお、台風第24号が1日未明に東京地方に接近したため、記録的な暴風雨となった所があった。</p> <p>中旬：前線や湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多くなった。</p> <p>下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日もあった。期間を通して南から暖かい空気に覆われることが多く、気温は高くなった。</p>
11月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、気圧の谷や湿った空気の影響で大雨となった日もあった。後半は南から暖かく湿った空気が入ったため、気温の高い状態が続いた。</p> <p>中旬：低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。期間を通して暖かい空気に覆われたため、気温はかなり高くなった。</p> <p>下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、低気圧や気圧の谷の影響で、曇りや雨の日もあった。後半は暖かい空気に覆われて、気温の高い日が続いた。</p>
12月	<p>上旬：低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。また移動性高気圧や日本海を低気圧が通過したため、南からの暖かい空気が流れ込みやすく、期間の中頃を中心に気温がかなり高くなった。</p> <p>中旬：冬型の気圧配置となり晴れの日が多くなったが、期間のはじめや16日から17日にかけては前線を伴った低気圧の影響で曇りや雨となった。</p> <p>下旬：西高東低の冬型の気圧配置が続いたため、晴れの日が多くなった。28日以降は強い寒気の影響で、気温が低く推移した。</p>
1月	<p>上旬：冬型の気圧配置が続いたため、晴れの日が多くなった。</p> <p>中旬：前半は低気圧と高気圧が交互に通過し、数日の周期で天気に変化した。後半は冬型の気圧配置や高気圧に覆われて、晴れの日が続いた。</p> <p>下旬：冬型の気圧配置となり、晴れの日が多くなった。31日は南岸低気圧や前線の影響で雨となり、雪の降ったところもあった。</p>
2月	<p>上旬：前半は冬型の気圧配置や高気圧に覆われて、晴れの日が多くなった。後半は周期的な低気圧の通過や冬型の気圧配置となり、短い周期で天気に変化した。</p> <p>中旬：高気圧と低気圧が交互に通過し、数日の周期で天気に変化した。前半は寒気の影響で気温が低くなったが、後半は暖気が流れ込んだため、気温が高くなった。</p> <p>下旬：前半は高気圧に覆われて晴れの日が多くなり、後半は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。</p>

3月	<p>上旬：高気圧と低気圧が交互に通り、天気は数日の周期で変わった。9日は日本海の低気圧が発達しながら東へ進んだため、関東地方では南よりの風が強まって気温も高くなり、関東地方で「春一番」が吹いた。</p> <p>中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。11日は関東沿岸を発達しながら北東に進む低気圧の影響で雨が降った。</p> <p>下旬：高気圧と低気圧が交互に通過し、数日の周期で天気に変化した。気温についても暖かい空気と冷たい空気に周期的に覆われ、変動が大きかった。</p>
----	---